

I. 会員の資質向上支援

I-1 学会誌の充実

会員等の多様化する情報ニーズに応じて、学会誌の内容を充実させ誰もが読みたくなり、親しみのあるものにする（主担当：編集委員会）。

I-2 研究発表会・シンポジウムの充実

会員の多く、特に若手会員が研究成果を発表できる環境を整備するとともに、新しい話題を企画し提供する（主担当：事業企画委員会）。

I-3 ホームページなど情報発信機能の充実

ホームページを適宜更新し、本学会および関連学協会の最新情報を提供する。またニューズリストを活用し、タイムリーなニュースやトピックスを会員に発信する（広報・情報委員会）。

II. 学術・技術の進歩への貢献

II-1 基礎的な研究の継続

学術団体として、基本である応用地質学に関する基礎研究を継続して行い、研究成果は適宜、研究発表会、シンポジウム、学会誌などで公表する（「I-2 研究発表会・シンポジウムの充実」と関連）（主担当：各研究部会）。

II-2 研究教育部門の充実

実務レベルの研究・教育を担う研究教育部門を充実させる（主担当：研究企画委員会、応用地質学教育普及委員会）。

II-3 応用地質技術者の育成

応用地質技術者育成のための実践講座などをさらに充実させる（主担当：応用地質学教育普及委員会・各研究部会）。

III. 社会への貢献

III-1 災害時緊急対応と速報の発信

地質に係わる広域自然災害発生時には、調査団を設置するなど学会をあげて対応し、防災・減災に貢献する（主担当：理事会、災害地質研究部会、各支部）。

III-2 アウトリーチ活動の推進

一般市民への啓発・普及活動や安全な地域社会へ向けての提言などアウトリーチ活動を推進する（主担当：事業企画委員会、社会貢献と魅力発信に関する特別委員会、各支部）。

IV. 学会基盤の強化

IV-1 将来構想の策定

10年単位の将来の学会のあり方を策定する（主担当：将来構想委員会準備会・理事会）。

IV-2 会員の確保

会員減少)に対応するための多面的な施策を実行する(主担当:総務委員会)。

IV-3 国際活動の活性化

国際委員会を中心に,国内外の情報発信を活発化する(主担当:国際委員会)。

IV-4 ダイバーシティおよびインクルージョン(多様性と包摂性)の推進

会員の多様性を受け入れ,その多様性を生かして学会活動の活性化を推進する(主担当:ダイバーシティ推進準備会)。

IV-5 関連学会との連携の強化

地球惑星科学連合での活動を継続し,また応用地球科学の関連学会との連携を強化する(主担当:理事会)。